特集

災害への備えと早めの避難

4月に配布した『防災ハンドブック』を再度確認し、災害に備えましょう。

避難情報の種類

緊急の度合い　高い

1 避難準備・高齢者等避難開始

避難に時間を要する人に避難を始めてもらうときに発表する情報

非常持出品を準備するなど避難の準備を整えてください。次に該当する人は、避難を開始してください。

○高齢者や乳幼児・体の不自由な人・避難に時間のかかる人とその避難を支援する人

○川沿いにお住まいの人・避難が困難な場所にお住まいの人

2 避難勧告

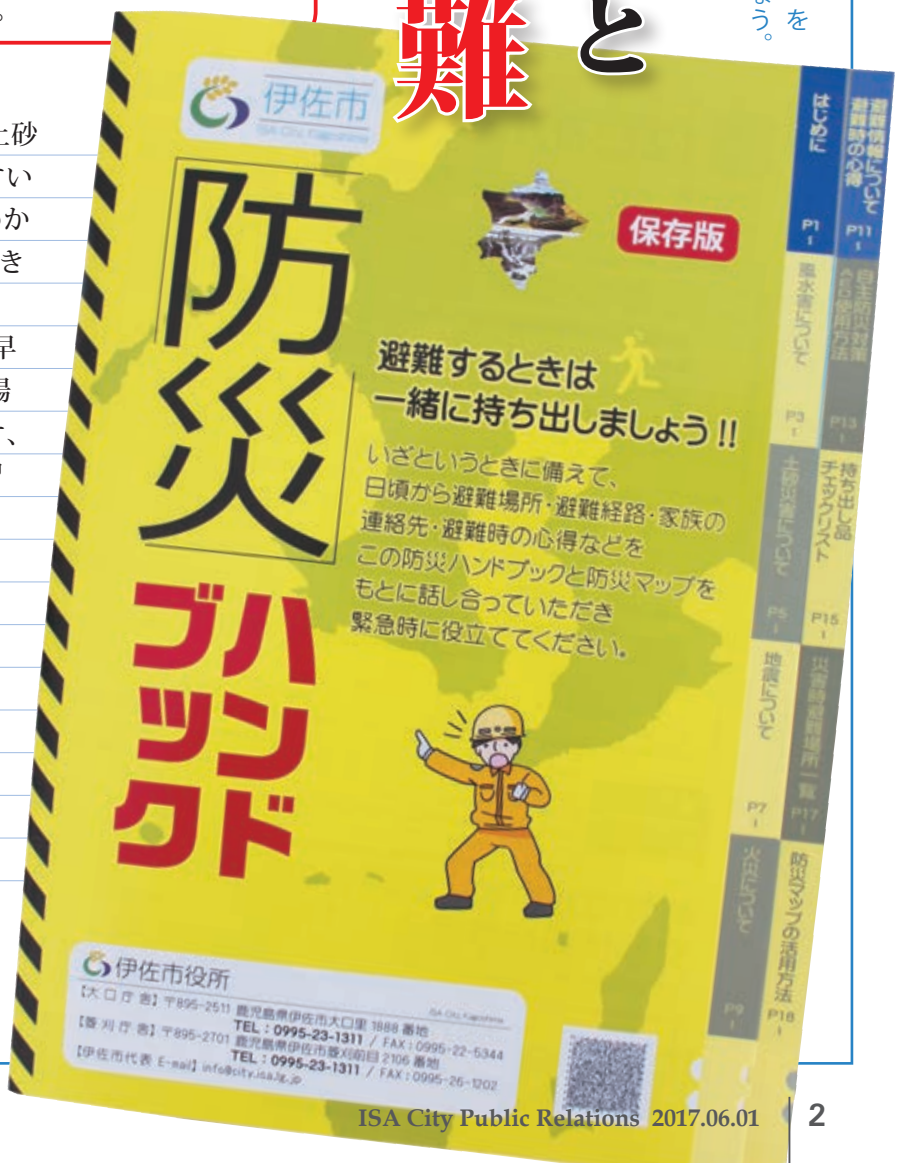
災害発生のおそれがあり、皆さんに避難を始めてもらうときに発表する情報

準備した非常持出品を持ち、指定された避難所や安全な場所へ速やかに避難を始めてください。避難の際はがけ崩れや浸水箇所に注意してください。

3 避難指示(緊急)

災害発生の危険が非常に高く、すぐに避難してもらうときに発表する情報

一刻も早い避難が必要です。関係機関の指示に従って、ただちに避難してください。避難所への避難が困難な場合は、丈夫な建物の２階以上（斜面と反対側）に避難するなど、生命の危険をさける行動をしてください。



これから梅雨や台風の襲来等により、土砂崩れや河川のはん濫など災害が発生しやすい時期を迎えます。災害はいつ発生するかわかりません。日ごろから十分な備えをしておきましょう。

災害から身を守るために大切なことは、早めに避難することです。日ごろから避難場所や避難経路を確認し、テレビやラジオ、インターネット等の気象情報に注意する習慣をつけ、危険を感じたり避難指示等があったときのために、貴重品や非常持出品を持って安全な場所へ避難できるよう備えておきましょう。

また、避難するときは単独行動をなるべく避け、近隣の人と協力しながら安全な場所に避難しましょう。

『防災ハンドブック』は問い合わせ先にあります。

問い合わせ先

総務課交通消防防災係　☎㉓１３１１

持ち出し品チェックリスト P 15～

防災マップの活用方法 P 18～

風水害について P 3～

土砂災害について P 5～

市からの情報伝達方法

◎携帯電話の伊佐市災害情報メールによる災害情報の配信

登録方法

①携帯電話から次の URL に接続（http://www.isa.kagosima.jp/mobile）
ＱＲコード→
②会員登録をクリック
③メールアドレス入力欄へメールアドレスを入力し、登録ボタンをクリック
④登録後、入力したアドレスに「登録完了のメール」が届き、登録が完了

◎市ホームページ「緊急のお知らせ」（トップページ中央上）
◎ＭＢＣデータ放送　12頁参照
◎広報車（消防車）による伝達
◎有線放送・電話等による伝達

伊佐市避難所一覧

地区名	避難所	電話番号
大口	大口ふれあいセンター	㉒ 1613
大口東	大口東小学校体育館	㉒ 0263
牛尾	大口温泉高熊荘	㉒ 6200
山野	山野基幹集落センター	㉒ 0407
	十曽フレンドハウス	㉒ 0959
山野西	山野西文化交流館	㉙ 3355
布計	布計地区多目的集会施設	—
平出水	平出水いなほ館	㉒ 6653
羽月	羽月地区公民館	㉒ 0355
	伊佐市総合交流拠点施設（旧大口南中学校）	㉒ 2125
羽月北	旧羽月北小学校体育館	㉒ 3114
羽月西	羽月西青少年センター	㉘ 2111
曽木	西太良地区コミュニティセンター	㉕ 1121
針持	針持青少年センター	㉕ 1140

地区名	避難所	電話番号
菱刈	菱刈ふるさといきがいセンター	㉖ 3000
	菱刈人権文化センター	㉖ 4185
	菱刈ひまわり館	—
	新川地区集落センター	—
田中	田中ふるさと館	㉖ 5288
本城	本城校区集会施設	㉖ 4639
湯之尾	湯之尾校区集会施設	㉖ 4261
南永	南永小学校体育館	㉖ 3980
市内全域	大口元気こころ館（福祉避難所）	㉓ 2361
	まごし館（福祉避難所）	㉖ 4120

※福祉避難所とは、避難をした際にお手伝いが必要な人が避難する場所です。

一覧以外に各自治会が定めた避難所や近くの学校等も避難場所になります。
ただし、自治会指定避難所に避難した場合は、自治会長から市役所に人員等の報告をする必要があります。

没後40年 ―その人間性や文学の魅力を探る―

海音寺潮五郎

伊佐が生んだ偉大な歴史作家

全6回連載

今年12月に海音寺潮五郎先生の没後40年を迎えます。海音寺文学の歴史ロマンにふれ、偉業を顕彰するために、日本近代文学の「読む楽しさ」を伝えていらっしゃる鹿児島純心女子大学の古閑章教授に海音寺先生の人間性、文学について紹介していただきます。

第一回 海音寺潮五郎の先見性（上）

鹿児島純心女子大学教授　古閑　章

２０１７（平成29）年は、西郷隆盛が城山で亡くなり、西南戦争が終結して１４０年の節目に当たる。と同時に、その西郷を敬愛し、日本や中国の歴史上の偉人を生き生きと紙上に蘇らせた郷土の文豪・海音寺潮五郎が没して40年目でもある。そして西郷と海音寺の没年（１８７７年と１９７７年）が期せずして百年開いていることは、常に10年を一期としたさまざまな行事に際会できるということであり、両人のファンにとっては願ってもない喜びであろう。まして来年は、明治維新１５０年。海音寺が史伝「西郷隆盛」で明らかにしようとした「幕末・維新史と西郷隆盛」に新たな光を当てる絶好の機会と言ってよいかも知れない。

生前の海音寺が和尚さんと愛称されたり、直言の人と尊称されたりしていたことは周知である。いつの時代も、権力者にすり寄り、歯の浮いたようなおべっかを弄するイエスマンは絶えないが、海音寺は、いかなる権威にも屈せず、思ったことを憚りなく発言し、是々非々の態度で一貫した文学者であった。そういう意味では、まさしく掛け値なしのぼっけもんであり、薩摩隼人にほかならなかった。そしてこうした気骨の精神は、昭和10年代、時代小説家として活躍し始める頃から顕著になって行くが、やがて歴史・史伝小説の分野に確固とした地歩を築くとともに、幅広く深い歴史知識を背景にした随筆類にも、凡俗の書き手には見られぬ洞察力がひらめくようになる。

海音寺　潮五郎（本名：末冨東作）

1901（明治34）年鹿児島県伊佐郡大口村（現・伊佐市大口）に生まれ、大口尋常高等小学校、旧制加治木中学校、国学院大学卒業後、旧制指宿中学校、京都府立第二中学校の国漢教師を勤める中、1929（昭和４）年に『サンデー毎日』の懸賞小説に「うたかた草紙」が入選、1934（昭和９）年から本格的に文筆活動に入り、1936（昭和11）年に「天正女合戦」「武道伝来記」で第３回直木賞を受賞。鹿児島県出身では唯一の直木賞受賞者です。

海音寺文学は史実を踏まえた歴史小説に定評があり、とりわけ大衆小説を正道に戻し国民文学に高めることに精魂を傾け、長篇「平将門」「天と地と」「二本の銀杏」や「悪人列伝」「武将列伝」「西郷隆盛」などの史伝による功績で、1968（昭和43）年に第16回菊池寛賞を受賞。さらに、我が国の文学界の進歩に著しく貢献したとして、文化功労者、紫綬褒章、芸術院賞という最高の名誉に輝きました。特に、ライフワークである史伝「西郷隆盛」は未完ながら海音寺文学の到達点を示すものです。

1977（昭和52）年４月大口市（現・伊佐市）名誉市民となりましたが、12月１日76歳で生涯を閉じました。

このたび「海音寺潮五郎没後40年―その人間性や文学の魅力を探る―」を『広報いさ』に全6回連載するに当たり、手始めに、海音寺その人の生身の人間性が鮮やかに垣間見られるエッセイを取り上げ、時代を超えて心に響く「海音寺潮五郎の先見性」について記してみたい。

1964（昭和39）年9月～11月にかけて『週刊現代』に連載された時事評論に「海音寺ガミガミ説法」がある。『海音寺潮五郎全集』第21巻に収録されているので、誰でも読むことができる。

その第一の注目点は、半世紀前の東京で起こっているさまざまな現象が、現在テレビやラジオやインターネット等で話題にのぼる多種多様な情報を先取りする形で問題化されていることである。かつての東京に噴出していた問題が、その後も相変わらず繰り返され、解決していないことへの素朴な驚きである。そうした理不尽な現実に対する海音寺の怒りは、まさに「ガミガミ説法」と呼ぶにふさわしい迫力に充ちており、少しでも日本人の生活をよりよい方向に前進させたいとの前向きな熱意を感じさせられる。

1964年と言えば、東京オリンピックが開催された年である。当時の都民はオリンピック誘致で戦後復興からの脱却を願う一方で、深刻な水不足に悩んでいた。そのため、当初オリンピック開催には否定的な意見が少なくなく、海音寺はむしろ強硬な反対論者のひとりであった。戦後20年経っても、いまだに真夏の渇水は解消されておらず、そうした状況を踏まえると、オリンピックは都民の声を無視した暴挙とさえ思われたのである。そしてどうやら、オリンピック誘致の背景には、外国からの観光客が増加することによって経済が浮揚し、金が儲かるとの政財界の思惑が隠されていた節もある。海音寺はそうした政治がらみの金の問題をにらみながら、このエッセイのかなめである、江戸幕府の上水道政策に言及している。

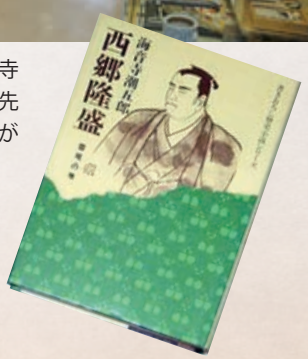
かつて江戸時代の水道管には、耐水性の強い檜材が使われていた。しかし、地下に埋めて水を流すとどうしても腐り、毎年そのメンテナンスには莫大な費用がかかった。あるとき幕閣のひとりが「土管で作ったら、檜のように交換する必要がなくなるから節約できるのではあるまいか」と提言した。すると、他の閣老たちもそれに賛同し決まりかけたのだが、秋元但馬守喬知が「江戸は地震の多い所でござる。地震のさい土管が割れたら、水の供給が途絶えまする。地震には火事がつきもので、水が切れると大変になりもうす。腐ったら檜を取り替えればよろしい。金がかかっても、結局それが民を安んじる政治というものでござる」と発言したので、土管案は採用されなかったと言う。但馬守の意見は、目先の利害に捉われない政治の理想から割り出されているゆえに、他の幕閣も心を動かし、土管案にこだわらなかったのである。

この事例で海音寺が訴えているのは、政治は商売とは異なるという信念である。都民の税金を生かすも殺すも、都民のためを考える為政者の高い識見以外にない。どうか現代の政治家は私心を捨てて善政を行ってほしい、という切なる願いがこのエピソードには込められている。

なお、但馬守のエピソードは「チリ紙と樋」という随筆にも取り上げられており、海音寺が好んでいた話材ということが分かる。江戸時代が260年も続いたのは、心ある為政者が少なくなかったからだという海音寺の炯眼は、昨今マスコミを騒がせる政治家の体たらくを考えると、傾聴に値するように思われる。

▲大口図書館内に海音寺文庫コーナーと海音寺先生が生前愛用した書斎が復元されて展示されています。

海音寺先生の作品▶



古閑　章（こが　あきら）

鹿児島純心女子大学教授。国際文化研究センター所長。文学博士。専門は、日本近代文学および鹿児島の近代文学。単行研究書として、『梶井基次郎研究』（1994）、『作家論への架橋』（1997）、『小説の相貌』（2004）、『梶井基次郎の文学』（2006）、『天璋院篤姫と権領司キヲ』（2008）、小説集として『子供の世界』（2011）など。海音寺潮五郎の人と文学については、生誕100年を契機に敬愛の念をもって取り組んでいる。

こども課からのお知らせ

問い合わせ先　こども課　☎㉓１３１１

児童手当現況届の提出

毎年６月１日の状況を把握し、６月分以降の児童手当を引き続き受ける要件（児童の監督や保護、生計同一関係など）を満たしているかを確認するためのものです。

提出がない場合には、６月分以降の手当が受けられなくなります。

受付期間　６月 19 日（月）～ 30 日（金）
※土日は除く。

受付時間　９時～ 17 時 15 分

受付場所

○こども課子育て支援係（大口庁舎）

○地域総務課市民窓口係（菱刈庁舎）

※対象者には６月上旬に通知します。

担 当 係　子育て支援係

病児・病後児保育事業の対象年齢を拡充します

拡充

市では、お子さんが病気等により、通園中の保育園・認定こども園で保育ができない場合に、市が委託した施設において、看護師と保育士が保育をおこなっています。

昨年度までは「満１歳児から小学校就学前までの児童」を対象としていましたが、平成 29 年度から「満１歳児から小学校２年生までの児童」へ対象年齢を拡充します。

実施施設　羽月保育園　☎㉒６３８８
（大口堂崎 562 番地６）

利用対象者　市内に住所がある満１歳児から小学校２年生までの児童

保育時間　月～金曜日の８時～ 18 時

保育料金　１日 1,500 円
※別途給食費・おやつ代 300 円

利用方法　こども課で事前登録が必要です。医師の診察を受けてから、利用日前日までに羽月保育園へ直接お申込みください。

※利用時は医師による診療情報提供書が必要です。診療情報提供書は、こども課と羽月保育園にあります。

※小学生の利用は新規登録が必要となります。

担 当 係　子育て支援係

母親学級を開催します

New

市では、妊婦の母親学級をなかむら産婦人科に委託して実施します。参加費は無料です。

対　　象

市内に住民票がある妊婦（どこの病院にかかっていても参加できます）。

ただし、市外に住む人でもなかむら産婦人科にかかっている人は、病院の母親学級として、これまでどおり参加できます。

※後期は、妊娠 32 週以降の人が対象になります。前期は、妊娠週数は問いません。

場　　所　前期：なかむら産婦人科
後期：大口元気こころ館

時　　間　14 時～ 16 時

開催日程	前期	後期（妊娠 32 週以降）
場所	なかむら産婦人科	大口元気こころ館
６月	６日（火）	20 日（火）
７月	４日（火）	18 日（火）
８月	１日（火）	22 日（火）
９月	５日（火）	19 日（火）
10 月	３日（火）	17 日（火）
11 月	７日（火）	21 日（火）
12 月	５日（火）	19 日（火）
１月	９日（火）	23 日（火）
２月	６日（火）	20 日（火）
３月	６日（火）	20 日（火）

事前予約が必要です。開催日の前週金曜日の午前中までにご連絡ください。

予 約 先

なかむら産婦人科　☎㉔２２３８

※託児が必要な人は、予約時にお伝えください。

担 当 係　こども健康係

伊佐市ファミリーサポートセンター 援助会員募集

伊佐市大口子育て支援センター 育児サポーター募集

New 募集

市では、地域ぐるみで子育てを応援する会員組織として、伊佐市ファミリーサポートセンターを開設しました。ファミリーサポートセンターの『援助会員』や『育児サポーター』として、子育ての応援をしてくださる人を募集します。安心して活動していただけるよう、子どもについて全般的に学べる講習会を開催しますので、子育ての応援に興味のある人はぜひご参加ください。

※子育ての応援をしてほしい『依頼会員』の募集は、6月15日号に掲載します。

活動内容

1 ファミリーサポートセンター『援助会員』

送　　迎　○保育園・幼稚園・小学校・放課後児童クラブ等から自宅等へ

預 か り　○保育園・幼稚園・小学校・放課後児童クラブ等の終了後や休日
○冠婚葬祭・学校行事・保護者の外出時等

※送迎・預かりの対象：生後3か月～小学生

2 『育児サポーター』

講演会等での託児、地域での声かけや見守り

対 象 者
- 市内在住で20歳以上の健康な人
- 子育て支援に理解のある人
- センターが実施する下記講習会を受講された人

ファミリーサポートセンターのしくみ

依頼会員
子育ての応援をしてほしい人

①依頼申込み

③提供会員の紹介

センター（ルピナス）

②依頼内容の打診

援助会員
子育ての応援をしたい人

④事前打ち合わせ

⑤活動開始

⑥活動報告書の作成、報酬の受け渡し

※援助会員はセンターへ活動報告書を提出

利用時間・料金

月～土曜日 7:00 ～ 20:00
1時間あたり 600円
※祝日・お盆・年末年始を除く。

上記以外　1時間あたり 700円

※1時間を超えたら30分ごとに記載している金額の半額が加算されます。

1 援助会員・2 育児サポーターの講習会日程

期日	時間	講習内容	講師
7月 6日（木）	9:00 ～ 10:10	オリエンテーション「伊佐市の子育てネットワーク」	こども課保健師
	10:10 ～ 11:00	ファミリーサポートセンターのしくみ	こども課職員
	11:10 ～ 12:10	小児看護の基礎知識	こども課保健師
7月13日（木）	13:30 ～ 15:00	安全と事故予防、心肺蘇生法	福重寿郎氏（NPOこども医療ネットワーク、県立北薩病院小児科部長）
	15:10 ～ 16:00	小児栄養	認定こども園大口幼稚園管理栄養士
7月20日（木）	9:00 ～ 10:30	こどもの発達	トータルサポートセンター臨床心理士
	10:40 ～ 11:30	こどものお世話・遊び	ルピナス保育士
	11:40 ～ 12:30	これからの活動について会員証発行	ルピナス保育士
会場	ルピナス　さくらんぼルーム（旧大口南中学校）		

申込期限　6月20日（火）

申込・問い合わせ先　伊佐市大口子育て支援センタールピナス　☎㉓５０８０

担 当 係　子育て支援係

男女共同参画社会　男女共同参画に関する県民意識調査

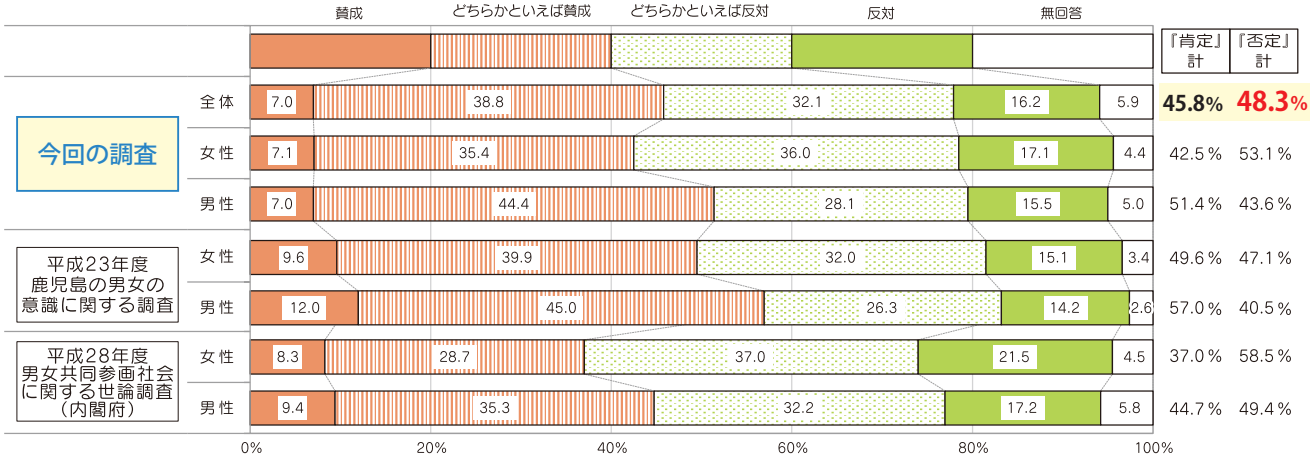
県では、平成 28 年 8 月～ 9 月にかけて、男女共同参画社会づくりに向けた施策の推進を図るため、男女平等、男女の人権に対する意識や、家庭・地域などに関する意識調査を行いました。

男女共同参画の意識が大きく変わった２つの項目を紹介します。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方（固定的性別役割分担意識）

今回の調査で初めて、「否定」（48.3％）する人の割合が「肯定」（45.8％）する人の割合を上回りました。

※伊佐市平成 26 年度調査では　『否定』44.8％　『肯定』21.1％

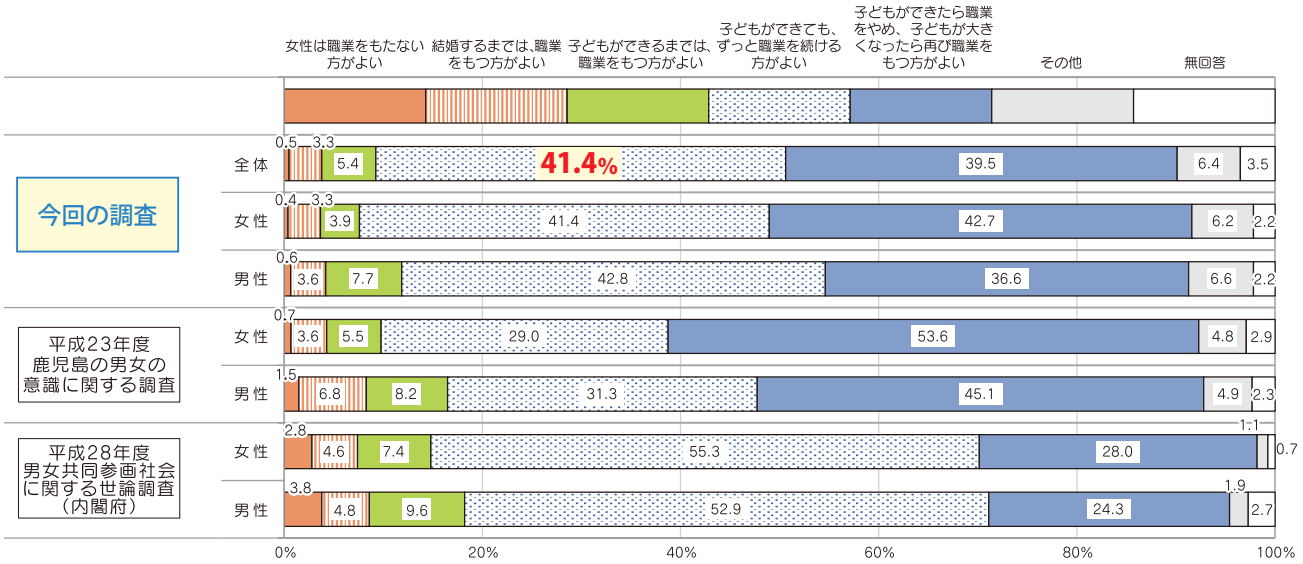


※『肯定』は、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、『否定』は、「反対」と「どちらかといえば反対」を合算

女性が職業を持つことについての意識

初めて「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」と回答した割合が最も高くなりました。

※伊佐市平成 26 年度調査では　『子どもができても仕事を続ける方がよい』40.9％が最多。



男性と女性が、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」を実現するためには、政府や地方公共団体だけでなく、国民の皆さん一人ひとりの取組みが必要です。そのために「女性活躍推進法」では、女性の能力発揮のための支援、子育てや地域支援など、働き方改革、男性の家事・育児等への参画を促しています。

その他、詳しい内容については県ホームページをご覧ください。

問い合わせ先　企画政策課共生協働推進係　☎㉓１３１１

○男女共同参画週間○

６月 23 日～ 29 日の男女共同参画週間に、市立図書館で関連本等のコーナーを設置します。

△平成 29 年度男女共同参画週間キャッチフレーズが決定しました。

市教育委員会では、「ポスト国民文化祭」事業として、演劇に気軽に触れ、体験する機会を提供する参加型文化体験事業・演劇ワークショップ「劇団いさ」を実施しています。

今年度は、ワークショップの集大成となる発表公演の上演台本創作にあたり、皆さまからエッセイを募集します。

寄せられたエッセイを原案に演劇作品をつくり、それをひとつの作品に構成して上演します。

構成・演出を手掛けるのは、伊佐市を拠点に活動する演劇集団非常口です。

皆さまの応募をお待ちしています。

募集要項

ジャンル	エッセイ
テーマ	心にのこる“ありがとう”
分量	400字詰め原稿用紙1枚以上（400文字以上）
参加対象	伊佐市民及び現在またはかつて伊佐市に在住・在学・通勤の人、伊佐市にゆかりがある人、伊佐市を訪れたことがある人
参加料	無料
応募締切	7月31日（月）

演劇ワークショップ「劇団いさ」第3期生
上演作品『心にのこる“ありがとう”』原案エッセイ募集

必要事項の記載方法

○1枚目は表紙とし、次の必要事項を記載してください。①氏名（ふりがな）②性別③年齢④住所⑤電話番号⑥メールアドレス（あれば）⑦学校名・学年（児童・生徒の場合）⑧伊佐市との関わり（市外からの応募の場合）

○2枚目には、1行目に題「心にのこる“ありがとう”」、2行目に氏名を記載し、3行目からエッセイの本文を記載してください。

○縦書き・横書きは自由です。

○提出は原稿用紙である必要はありません。

注意事項

・応募原稿は返却しません。ご了承ください。
・FAXでの原稿送付は受付けません。
・上演作品でエッセイを使用する場合のみ、その旨をご連絡します。使用にあたっての謝金等はありません。
・応募原稿は、演劇の上演台本に構成する段階で、文章を改変する場合があります。
・エッセイの内容は、作者本人のオリジナルエピソードでお願いします。
・応募原稿の内容について、後日取材させていただく場合があります。
・上演は、平成30年1月を予定しています。

※本作品の出演者募集は後日改めて行います。

提出方法

手書きもしくはプリントアウトした原稿を次の方法で送付してください。

◎持参または郵送の場合

〒895—2701
鹿児島県伊佐市菱刈前目2106
伊佐市役所菱刈庁舎3階
教育委員会文化スポーツ課内「劇団いさ」担当宛
※封筒の表に「劇団いさエッセイ在中」と明記してください。

◎データ送付の場合

文化スポーツ課メールアドレス（k-sport@city.isa.lg.jp）に送信してください。
※表題に「劇団いさエッセイ（送信）」と記載してください。
※文書データを添付ファイルで提出できます。

「劇団いさ」第2期生
発表公演『お月見トラベラー2016』より

企画・運営　演劇集団非常口　※市から委託を受けて企画・運営をしています。

提出・問い合わせ先　文化スポーツ課文化係　☎㉖1578　✉k-sport@city.isa.lg.jp